

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270102262		
法人名	医療法人 蛭慈会		
事業所名	グループホーム 蛭		
所在地	青森市浅虫字蛭谷327-3		
自己評価作成日	平成24年10月12日	評価結果市町村受理日	平成25年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成24年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海・山・温泉と自然に恵まれ、観光公共施設に囲まれた環境に立地しています。地域の行事に招待を受けたり、ホームの行事へ招待したり、長寿会の活動に参加したりと積極的に交流を行っています。また、消防・警察・住民の協力により、災害や事故時の協力体制を整えています。セラピー犬シロちゃんが地域の皆様の看板犬となり、入居者様の癒しとなっています。母体が地域の中にある病院で、身体状況の変化に24時間体制で対応ができ、健康相談等も気軽にすることができます。看取りの介護も行っており、福祉と医療面と連携してケアすることができます。職員は質の向上を図るため、能力に応じて外部研修へ出向き、内部研修へとつなげ、全職員で勉強しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の母体が医療機関であり、特性を活かして、重度化や終末期、看取りへの対応が行われ、利用者が最期まで安心して過ごすことができるような体制を整えている。
地域との関わりをとっても大切に考えており、ホームとして地域に貢献している一方、様々な機会に地域からも協力が得られており、利用者は地域の中で安心して暮らすことができる。
また、職員は利用者や家族の思いを大切に、希望が叶えられるように支援に努め、利用者、職員共に穏やかに楽しく、日々を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で地域密着型サービスの役割について話し合い、事業所独自で考えた理念「地域の中で自分らしく生き生きと」を、ホールと玄関、事務所に掲示し、管理者と職員は日々念頭に置き、共有して業務に取り組んでいる。	「地域の中で自分らしく生き生きと」というホーム独自の理念を掲げており、利用者が自分らしく、積極的に地域住民と関わりながら暮らせるように支援している。また、広報誌に毎回理念を載せている他、共有部分のホールや事務室に掲示し、全職員がいつも理念を念頭に置きながら日々の業務に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	セラピー犬散歩時に顔見知りになった近隣の方々、気軽に立ち寄ってくださる。また、町内の行事には招待を受けたり、招待したりと馴染みの付き合いとなっている。ねぶた祭りでは駐車場を休憩所に提供し、施設内のトイレを開放し、軽食を出して祭りを盛り上げている。町内一斉清掃に積極的に参加し、美化活動に努めている。長寿会では趣味の展示会へ入居者と一緒に作った作品を展示し、町内の方々と交流を深めている。	町内会の行事に積極的に参加している他、ホーム行事の際には地域住民を招待している。地域の防災訓練に参加したり、ホームの避難訓練時にも、地域住民が防災協力員として参加してくれる等、地域の一員として相互交流に取り組んでいる。また、セラピー犬や利用者の散歩の機会を通し、地域住民と馴染みの関係ができており、気軽にホームに立ち寄っていただけるような関係が構築されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学、相談は随時受付し、対応している。地域の介護サービスの苦情・相談窓口としても位置づけられている。また、外部の方が来訪した際は、入居者へ説明を行い、了承を得ながら行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーには会議の意義や役割を理解してもらい、積極的に意見を出し合い、今後の取り組みにつなげている。外部評価実施や評価結果、目標達成計画についてその都度説明をし、意見交換を行う等、質の向上につなげている。	2ヶ月に1回開催する運営推進会議へのメンバーの出席率が良く、広く意見を出し合い、活発な会議内容となっている。自己評価の取り組みや外部評価の結果等を報告し、メンバーからは忌憚のない意見をいただいております。ホーム運営やサービスの質の向上へ活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員に運営推進会議に毎回参加していただき、情報交換を行ったり、日頃から困難事例の相談や助言を受けている。市町村へは自己評価・外部評価結果・目標達成計画を提出し、報告を行っている。分からないことはその都度相談し、助言を受けている。また、ホーム新聞を配布して、日々の取り組みを伝えている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が毎回参加している。常日頃から相談したり、情報交換ができる関係を築いている。また、市役所へは自己及び外部評価結果や目標達成計画を提出しており、広報誌も日々のホームの取り組みを伝える機会として配布し、ホームの実情を理解していただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、外部研修・内部研修で繰り返し勉強し、禁止の具体的な行為を正しく理解して、施錠をしないことや外出傾向のある入居者の見守りの強化等、実践に取り組んでいる。無断外出時に備えて、町会を通して近隣からの協力を得ており、徘徊捜索マニュアルを作成し、町内の交番へ提出して協力体制を整えている。	全職員で「身体拘束を行わない」との共通理解の下、身体拘束の内容や弊害について、内外の研修等を通じて理解を深めており、実践されている。玄関の施錠は行っておらず、地域住民との馴染みの関係が構築されていることから、見知らぬ高齢者を見かけるとホームに問い合わせがあり、協力体制の確立がなされている。また、徘徊捜索マニュアルを作成して交番に提出して、利用者の無断外出時等への協力について依頼をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について外部研修・内部研修で繰り返し学習し、虐待防止への理解を深めている。虐待が見逃されることがないように職員間で言い合える環境を作り、取り組んでいる。また、管理者は日々のケアの提供場面を観察し、未然に防ぐように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業・成年後見制度について、外部研修・内部研修で勉強し、理解を深めるように努力をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書を基に、理念等、ケアの方針や取り組みについて、分かりやすい言葉で十分に説明を行い、同意を得ている。解約の際も同じく十分な説明を行い、同意を得て、不安を生じさせないような支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関へ意見箱を設置し、意見や要望を出しやすいよう働きかけている。入居者の意見や不満は日々の会話から察するように取り組んでいる。運営推進会議で外部に意見や要望等を話せる機会を作っている。また、出された意見等は速やかに改善策を話し合い、今後活かしている。	利用者には日々寄り添い、些細なことでも話せる関係を築いている。玄関に意見箱を設置している他、内外の相談苦情窓口をホーム内に提示し、重要事項説明書にも明記して、説明している。広報誌には「苦情・ご意見・ご要望・その他ご相談はいつでも受け付けております」と記載しており、何でも話してほしいとの思いで働きかけている。また、出された意見や要望については、速やかに話し合いをして改善し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者から全職員へ、ミーティングの時に経営状況等の伝達をしている。また、職員から出された意見は随時聞き入れて検討し、業務改善につなげている。風呂場へのリフト浴設置や屋内補修工事等は、職員の意見が反映された一例である。	日頃から意見や提案を出しやすいよう、職員とのコミュニケーションを大切に考えている。意見や提案があった際は、すぐにその場で話し合いを行い、必要に応じて事業責任者や代表者につなげ、業務改善ができるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の日々の努力や実績、勤務状況、健康状態等を自分の目で見て把握している。頑張れば頑張った分を認められるので、職員は向上心を持って仕事に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員一人ひとりの力量を把握し、その職員のレベルに合った外部研修を受講している。外部研修を終えると復命書を提出し、勉強してきた内容を内部研修の講師となって全職員へ伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東部地域包括支援センター主催の東部圏域グループホーム勉強会に、2ヶ月に一度、多数の職員が参加しており、他施設の職員と情報交換を行ったり、懇親を深め、質の向上に努めている。また、そのための会場の提供においても、積極的に協力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に自宅を訪問し、身体状態の確認の他、思いや希望、困っていること等に耳を傾け、利用開始時の不安軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の求めているものを理解し、これまでの家族の苦労や経緯について、ゆっくりと話を聴くようにしている。また、今後についてじっくりと話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付の時点で相談内容をよく把握し、何を必要とされるのかを見極め、助言や支援を行っている。必要に応じては他機関のサービス紹介や地域包括支援センターへ相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりに合った手伝いを日々の役割として一緒に行っている。また、悲しんでいる時は一緒に泣き、楽しい時は一緒に笑い、痛い時は手当てし、怒っている時はよく話を聴き、共感し合えるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方の家族には、毎月の手紙の他、写真等を添えて今の状態を伝えている。よく面会に来られる家族にはその都度状態を伝え、なかなか来られない家族には定期的に電話で状態や様子を伝えて情報交換を行う等、共に支える関係を作るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や友人を把握し、継続して交流ができるようにしている。希望に応じて馴染みの場所にドライブへ出掛けたり、支援を行っている。	入所時のアセスメントにて把握に努め、理美容院や商店等の馴染みの場所へ出かけたり、これまで関わってきた人との交流が持てるよう、電話や手紙のやりとりを支援する等、関係が継続できるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の人間関係を把握し、孤立したり、トラブルにならないように、テーブル席や暮らしの場を考えている。その人に合った手伝い等を役割として、入居者同士が協力し合って行えるように働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談に応じる姿勢を示している。季節の便り等を通して、今まで築いてきた関係が継続できるように努めている。また、ホームで看取った入居者の家族が法事の帰りに立ち寄ってくださったり、ダンス交流会と称して訪問して下さる等、より良い関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの日々の暮らし方や会話の中から、思いや希望をくみ取っている。困難な時は家族等から情報収集を行ったり、職員で話し合ったり、入居者の視点に立って意向等の把握に努めている。	アセスメントや家族、関係者からの情報を参考に、利用者との日々の会話や表情からも、本人の思いや希望を把握するように努めている。高齢、重度、終末等で意思表示が難しい利用者については、利用者一人ひとりの視点に立ち、自分に置き換えて全職員で話し合い、検討をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等について入居者と家族から伺い、前担当ケアマネよりサービス利用等についての情報収集を行っている。また、日々の暮らし方や会話の中から把握に努め、アセスメントをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	詳細なケース記録により、生活リズムや過ごし方、できる事、できない事、理解力等を把握している。体調の変化が著しい入居者は、より詳細に食事・水分摂取量や排泄状況等を別紙に記載し、動向把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は評価をしっかりと行い、再アセスメントをしている。入居者の意見や希望を最重要視した介護計画書を作成するために、日々の暮らしを常に観察記録し、職員間で気づき等を話し合っている。身体状態等の変化時は随時見直しを行っている。	介護計画作成時はアセスメントは勿論、利用者に関わる各関係者等から情報収集し、本人や家族の希望を確認し、作成している。見直しの際は評価、モニタリングを的確に行い、職員間で十分な話し合いをした上で、現状に即した介護計画の作成に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき等を随時、詳細且つ個別に記録し、職員間で情報を共有している。また、日々のケアが計画に沿って実践されているか、結果はどうだったのかを月1回まとめとして記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の状況によっては病院の付添介助を行っている。また、看取りの時や遠方の家族の希望があれば、宿泊や食事の提供等の対応をしている。また、同法人内のマッサージ師による機能維持訓練をサービス提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全に暮らせるように徘徊搜索マニュアルを作成し、地域の警察署へ出向いて協力を得ている。災害発生時に協力が得られるよう、地域住民から協力員の承諾を得ており、避難訓練時には一緒に訓練を行っている。また、ケアに行き詰まった時等は地域包括支援センターから助言を得たり、情報交換等を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の受療状況を把握し、家族や入居者本人の希望する医療機関を受診している。かかりつけ医とは常に連携を図り、身体状態の変化時や急変時に備えている。	希望の医療機関での受診、往診を支援している他、母体施設がかかりつけ医となっており、殆どの利用者が希望して主治医となっている。24時間体制で連携をしており、少しの状態変化の際も往診に訪れ、利用者や家族は安心して適切な医療を受けることができている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院が母体のため、いつでも気軽に相談できる環境にある。また、週に1回看護師の健康相談があり、気になる身体状態等の相談をしている。状態急変時や事故発生時のための医療24時間連絡体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関との情報交換を行い、事業所内で対応可能な段階での早期退院へ向けた話し合いや、家族と話し合いを行う体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応及び看取りに関する指針で方針を明確にしている。早期から話し合いを行い、意思の統一を図っている。入居者の意思・希望に沿った対応を心がけ、家族の意向に変化があった場合は、その意向に従い、支援している。看取りのケアに対する職員の困難や不安はその都度話し合い、看護師や主治医へ相談し、連携を密にしている。	重度化及び看取りに関する指針を掲げ、ホームの方針を明確にしている。入所時から利用者や家族と話し合いを持ち、希望を確認して、意向に添った支援を行っている。状態変化時には再度希望や意向を確認する話し合いをして、意思統一を図っている。また、現在終末期の利用者があり、家族にも宿泊していただいたり、かかりつけ医が状態変化時にすぐに駆けつける等、力を合わせて、できる限りの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所独自で作成した夜間緊急時の連絡・対応マニュアルを事務所に掲示し、誰でもいつでも対応できるようにしている。応急手当の対応はその都度医師、看護師に確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間想定と、年1回日中想定避難訓練を職員・入居者・防災協力員と一緒にやっている。また、一人ひとりの身体機能に合った誘導の仕方を全職員で話し合っている。設備点検を定期的に行い、避難経路の確保点検は日常的に行っている。災害時に備えて、地域住民へ協力員としての承諾を得る取り組みをしている他、食料や飲料水等の備品を用意し、リストを作成して保管・管理している。	日中・夜間を想定して、年3回、避難訓練を、職員や利用者、防災協力員の参加により実施している。避難訓練実施前には消防署に計画を持って行き、指導や助言を得ている。地域住民が防災協力員となっていると共に、職員も町内の災害訓練に積極的に参加し、相互の協力体制を構築している。また、災害時に備えた飲食料等の備蓄については、消費期限や数量を台帳にて適切に管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり、その人の生き方や考え方を理解し、希望や生きがいへと結びつくような温かい言葉かけやプライバシーに配慮した対応を全職員が心がけている。内部研修で定期的に認知症について勉強し、知識を深めている。	利用者が自分らしく、生き生きと暮らしていけるよう、職員は穏やかな口調で、人生の先輩として尊敬の意をこめた声かけを実践している。また、個人情報の取り組みに関する研修を行い、プライバシーに配慮したケアが実践されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの力量に応じて思いや希望を表せるように働きかけている。言葉で十分に意思表示できない場合は、日々の暮らしの中から汲み取ると同時に、会話時の表情や反応から読み取るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の過ごし方の決まりはなく、一人ひとりの生活のペースに合わせた取り組みを行っている。買い物や床屋、外出希望時は随時行うようにしているが、その日の天候や店の状況、身体状態等にも配慮して行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を自分で選んで着ていただいている。自分で選べない入居者は一緒に選んだり、合わせたりして決めている。ボタンのかけ違いや襟等の乱れは、さり気なく手直しを行っている。馴染みの理美容院へ継続して行けるよう、家族への連絡や送迎を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	年に2回嗜好調査を行い、希望や意見を献立作りに活かしている。献立作成時は希望を聞きながら、旬の食材や行事メニューを取り入れ、その人の食生活から好き嫌いを把握し、代替メニューを提供している。入居者と職員は毎食一緒に席に着き、会話をしながら食事をしており、後片付けも皆で協力し合い、行っている。食べこぼしはエプロンを着けない取り組みを行っており、自尊心等への配慮をしている。	法人栄養士の助言を得て、職員が献立を作成しており、嗜好調査を行う等、利用者や家族の希望を聞きながら取り組んでいる。また、旬の食材や近隣住民が差し入れてくれた野菜等も取り入れた食事を提供している。他、必要に応じて調理方法を変えたり、代替食も用意している。利用者にできる範囲で食事の準備や片付け等を職員と一緒にしており、会話を楽しみながら、職員も一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を個別に記録し、把握に努めている。普通食が摂れない入居者へは刻み食やミキサー食を提供しており、刻み食は見た目や盛り付け、飲み込みやすさ等を工夫して提供している。目の悪い人へは食器の色を工夫したり、食欲のない人へは時間を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の状態に合わせた促し方、声がけにより、全入居者が口腔ケアを行っている。職員は外部研修で口腔ケアについて学び、口腔ケアの大切さを理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別の排便チェック表をつけている。自力排泄が困難な入居者は、別紙でより詳細な記録を行い、プライバシーに配慮したトイレ誘導、おむつ交換を心がけている。“脱紙パンツ”のタイミングを常に見計らい、職員間で協力し、取り組んでいる。	一人ひとりの排泄パターンを記録し、把握している。事前誘導や随時の誘導をすることで、排泄の失敗が減ってきており、職員は対応について随時話し合い、見直しをしながら、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の記録から個々の排便リズムを把握している。排便困難な人には起床時に冷たい水や、おやつにすりリンゴ・乳製品等を提供し、元気プロジェクトと称して楽しみながら歩行訓練を行い、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	毎日温泉入浴を行っている。主に午後入浴だが、希望があれば好きな時間に対応している。機能低下した方にはリフト特殊浴を行っている。個々の湯加減の好みや習慣を把握し、心地よく入浴できるように配慮している。拒否のある方へは毎日声がけをしてタイミングを図ったり、時間をおいて再度声がけする等の対応をしている。	ホームのお風呂は温泉で、利用者の希望に応じて、毎日好きな時間に入浴できる体制を整えている。利用者一人ひとりの状況に合わせて、清拭や足浴、シャワー浴等での対応もしており、入浴を拒否する利用者には入浴の時間をずらしたり、対応職員を替える等の工夫も行っている。また、利用者の羞恥心や負担を十分に理解して支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつもと違う日常生活を送った時は、状態を見て休息の声がけをしている。寝付けない方にはホットミルクを提供したり、側に付き添い、話をしたり、添い寝をしている。薬にはなるべく頼らないよう、医師に相談しながら、日中の過ごし方から工夫し、夜間へつなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が服薬情報により、個々の薬を把握するようにしている。身体状態は常に観察に努め、変化があった場合はその都度主治医へ報告している。また、服薬による経過と状況を家族へ説明し、理解を得ている。誤薬等の事故防止に服薬チェック表を作成し、服薬介助終了後に確認印を押すようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日常生活から得意な事、好きな事を見極め、その人に合った手伝いを日々の役割としたり、レクリエーション等に活かしている。入所前に、禁煙施設であることは説明をして、同意を得ている。コーヒー等の嗜好品はいつでも飲めるようにホールへ置いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホールの縁側から臨む蛍農園は、身体機能に合わせて、誰でもいつでも外へ出て気分転換が図られるような造りとなっている。買い物希望時は行きたい日に合わせて付き添い、散髪は地域の床屋で終わったら電話をもらえるシステムや、見守りの協力を得ている。墓参り等も家族と相談しながら行っている。意思表示困難な方とは家族と協力し合い、自宅までの散歩等の支援をしている。行事には行きたい場所へ出かけられるドライブ等が組み込まれている。	アセスメントや関係者からの聞き取り、利用者との日常の会話の中から、馴染みの場所や行きたい場所等を把握しており、希望が叶えられるような外出支援に取り組んでいる。利用者の気分転換につながるよう、近隣への散歩を日常的に行っている他、買い物や外食、ドライブ等で外に出る機会を設けている。また、外出行事の際には家族へも連絡し、協力を得ながら行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力量を把握し、家族や入居者と話し合い、金銭の所持を行っている。所持が困難な方の金銭は事業所で預かり、金銭出納帳に記録し、定期的に家族立会いで出納確認を行っている。また、買い物時は力量に合わせて自分で支払いが行えるよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話の設置がないため、希望時は事務所からでも電話をかけられるようにしている。プライバシーに配慮して子機を使用し、部屋でかけることもできる。手紙は切手や便箋封筒を購入し、投函する支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は木目調で統一し、落ち着けるような雰囲気になっており、ホールには大きな窓があり、自然の光が入ってくることで朝夕を感じることができる。温度計と湿度計によって空調を常に調整し、四季を感じるように毎月壁画作りに趣向を凝らし、取り組んでいる。職員の足音や台所での雑音には特に注意を払い、不快音にならないように気をつけている。	ホールは大きな窓からの十分な採光により明るく、適切な空間となるよう温・湿度計を設置して管理し、日誌に記載している。共有部分の壁には季節が感じられる装飾品を飾っている他、窓からは四季折々の風景が望める。また、職員の話し方や物音は騒がしくなく、穏やかな雰囲気、心地よく過ごせるように実践されている他、セラピー犬が利用者の癒しとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には小上がりがあり、昼寝をしたり、マッサージを受けたり、皆で手伝いをしたり、多目的に利用されている。また、セラピー犬がおり、一緒に過ごし、入居者の癒しとなっている。椅子の配置を工夫して、外を眺めながら独りでゆっくり過ごせる空間や、ソファに横になりながらゆっくりテレビを見ることができるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みの物や毎日使っている物を持ってきていただけるように働きかけている。生活動線を良好に保てるような家具の配置を入居者と一緒に考えている。また、家族の写真や貼り絵等、好みの装飾になるように工夫している。	馴染みの物が持ち込まれ、利用者一人ひとりに合った居室となっている。ベッド等の家具は利用者に合わせて配置しており、利用者にとって、安心して過ごしやすい空間となるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の過ごし方や身体状況等を把握し、安全な生活動線を考え、食堂テーブルの配置や環境づくりを行っている。場所が分からなくなる入居者には、その人に合った目印を設置している。浴場には滑り止めマットやバスボードを設置し、危険回避に努めている。また、身体状態に適應しているかを常に話し合い、対応している。		